

# 日中の戦火報道 画報31冊を保管

小浜市深谷の下林雄さん(85)が、日中戦争の戦況を報じた週刊朝日・アサヒグラフの「支那事変画報」を大切に保管している。戦線が拡大する様子が写真や記事で記録されており、研究機関などへの貸し出しも検討している。

## 戦争を伝える

### 小浜の下林さん

骨董品や古い史料を集めるのが趣味で、約35年前に古物業者から1937〜40年に発行された「北支事変画報」や「支那事変画報」など31冊を購入した。

支那事変(当初は北支事変)は37年7月7日、日本軍と中国軍が衝突した盧溝橋事件をきっかけに戦局が拡大した。7月30日発行の「北支事変画報第1集」では陸軍省の動きを説明し、「濁流を泳いで追撃」と、戦闘の様子を伝える。

38年11月発行の「支那事変画報第24集」は「漢口攻略記

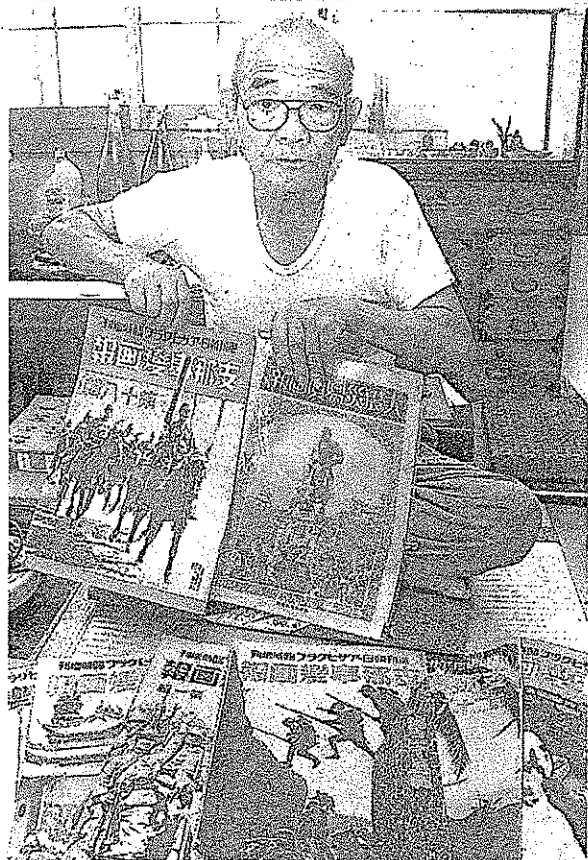
### 研究機関へ貸し出しも検討

念號」と題し、市街地を進む兵隊の写真や地図を掲載。「我が砲弾は見事命中して敵陣地の各所から紅蓮の炎が夕闇の空に燃え上がり、水に映る」などと、威勢のいい言葉を並べる。

下林さんは45年春、軍属として京都府舞鶴市の旧海軍軍需部で倉庫を管理する仕事に就いた。何度も空襲警報が鳴り、船舶を陸に上げたり、山から切り出した木々で船を隠したりしたことを鮮明に覚えている。

終戦を迎えると、建物で管理していた衣服などを受け取り実家へ帰った。「食べるものがなく、農家に米と交換してもらった」と当時を振り返り、「物資や食べるものがない苦しい時代だった。戦争だけは二度としてほくない」と話す。

(大久保直樹)



①支那事変画報を自宅で保管する下林雄さん＝小浜市深谷②日中戦争の現地の状況を写真や記事で伝える「支那事変画報」

8/21  
IAB